

授業概要

この授業では、主に戦後の日本経営史を対象とし、復興期から高度成長期までの経済発展と日本企業の変貌を概観する。戦後の日本企業はアメリカから先進的技術や経営管理手法を導入しながらも、それらを改良・消化し、「日本的経営」方式を築き上げてきた。授業ではアメリカからの経営管理手法の導入過程と内容、特に日本側の「創造的吸収」に焦点を当てて講義すると同時に、日本の生産システムの形成過程と意義、「日本的経営」の特質を考える。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（講義内容、講義方法、評価方法、参考書など）
第 2 回	戦前・戦時中における経営管理の近代化Ⅰ：産業合理化運動とテイラーシステムの導入
第 3 回	戦前・戦時中における経営管理の近代化Ⅱ：新産業合理化運動
第 4 回	アメリカ的経営管理方式の導入Ⅰ：導入過程と内容
第 5 回	アメリカ的経営管理方式の導入Ⅱ：日本側の「創造的吸収」
第 6 回	日本的生産システムの形成Ⅰ：その源流と形成過程
第 7 回	日本的生産システムの形成Ⅱ：その意義と評価
第 8 回	中間テスト
第 9 回	財閥の生成と特徴
第 10 回	三菱財閥の創業者——岩崎弥太郎
第 11 回	トヨタグループの創業者——豊田佐吉
第 12 回	財閥から企業集団へ
第 13 回	日本的経営とは何かⅠ：諸概念の解説
第 14 回	日本的経営とは何かⅡ：終身雇用、年功序列制の是非
第 15 回	新しい働き方への模索：成果主義の功罪
第 16 回	期末試験

到達目標

- 1、戦後日本経営史の初歩的な知識を身につける。
- 2、アメリカの経営管理手法の日本への導入過程、内容を習得する。
- 3、「日本的経営」とは何かを理解する。

履修上の注意

無断欠席、遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。

予習・復習

- 1、指定された日本経営史の参考書は少なくとも一冊を通読することが望ましい。
- 2、授業後にプリントおよび講義ノートを読み返し、要点を整理し、理解を深めてください。

評価方法

期末試験（40%）、中間テスト（30%）、授業態度（30%）を総合して評価する。

テキスト

特に使用しない。講義内容に応じてプリントを配布し、参考書を指示する。